

彼の著作、ほとんど文庫にありました!

文庫本

『遠い山なみの光』 ID16607 『充たされざる者』 ID16605 『わたしを離さないで』 ID16543 『浮世の画家』 ID17234 (以上、ハヤカワ epi 文庫) 『日の名残り』 (中公文庫) ID7803 『女たちの遠い夏』 (ちくま文庫) ID7701

単行本

『わたしが孤児だったころ』 ID8888 『夜想曲集』 ID7099 『忘れられた巨人』 ID16217 (以上、早川書房) ※短編『ある家族の夕餉』(『しみじみ読むイギリス・アイルランド文学』松柏社)と、『日暮れた村』(『世界文学全集 3-06』池澤夏樹個人編集 河出書房新社)は図書館でどうぞ!

★村上春樹さんは残念でした。

文庫あれこれ ◆10 月は空が高くて気持ちの良い青空のはずなのに、何だかずっと雨催いの日が続いて、大型台風も近づいている?。実りの秋の収穫物はどのようのでしょうか。◆英国人になってしまったカズオ・イングリクソンがノーベル文学賞を授賞されました。でも、うれしいことですね。文庫でも『わたしを離さないで』が話題になったものです。作品は文庫にほとんどあり、今回別置しましたのでお読みください。◆わけのわからない解散があり、明日は投票日。事前投票された方も多いようですが、お天気とで今月の文庫は寂しいかな? ◆気候は不安定でも、今月、来月と、秋はいろいろ行事があります。私が属している子どもの読書活動を支援する親地連の全国大会があって、今回の講師は、落合恵子、池内了の両氏でした。お二人とも、それぞれの立場で、この国の先々を憂い、私たちは、私たちの考えを持ち、表明して行かねばと書いておられました。(池内さんの子どもへの科学の本、数冊入れました。親子でどうぞ) ◆どこでもそうですが、若い働き手のおかあさんたちをお仲間にして引き継いでもらうのが大変です。自分の子どもを見ていても、子育ても私たちのころと違う。違った意味で社会が親を急き立てる? ◆何とかよい方向を見出してほしいですね、施政者たちも。寒い雨の土曜です。

★開館日は通常日 第3日曜と前日の土曜です★

2017

◆11月通常18日(土)、19日(日)の両日

◆12月通常16日(土)、17日(日)の両日

17日午前はクリスマスお楽しみ会

参加する人は、フレンチ(300円くらい)用意してね。今年もおはなしきいて、歌って、遊んで、文庫のクリスマス年越しをしましょ。

2018

◆1月通常20日(土)、21日(日)の両日

◆2月通常17日(土)、18日(日)の両日

◆3月通常17日(土)、18日(日)の両日

文庫の時間

土曜日は14:00~17:00

日曜日は10:00~15:00

◆毎月開館日の日曜には、10:30~11:30

子どものための小さなおはなし会があります。

★おはなし沙羅の勉強会

毎月開館土曜日11:00~13:00

よみかかせの練習・本選の勉強にもどうぞ!

◆毎月文庫だよりの表紙には、勝手に迷っています。今月は誕生月で、いくつかの記念日には、夫さんが食事や旅に誘ってくれるのですが(そのたびに次はないかもしれないと思ってね、と言います。われら老夫婦、先は?ですから)、今回は、隅田川沿い・柳橋の古いしもた屋さん(ご存じの方がいるか)、柳橋花街の芸妓で歌手だった市丸さんのおうちから、隅田川を遊覧する屋形船や、鉄橋を渡る総武線を眺めました。なかなか風情あり。その写真データを忘れてきてしまって…。表紙はかぼちゃ、となったということです。(西村)

沙羅の樹文庫 0557-51-3737 http://www.saranokibunko.com

沙羅の樹文庫だよりの



アメリカのかぼちゃ: ハロウィン・パンフキンバイ箱でお化けのように大きいかぼちゃを見てアメリカを実感。43年前のハロウィンの夜、4人の子ども(7. 6. 5. 3歳)を連れて、夫の勤務先シカゴの近郊に着きました。車窓から通りすがりの家々の窓にかぼちゃをくり抜いたジャック・オ・ランタンが不気味に目を光らせているのが見えました。

樹の伝説 長田 弘 この場所で生まれた。この場所です。この場所でじぶんでまっすぐ立つことを覚えた。空が言った。——わたしはいつもきみの頭のすぐ上にいる。——最初に日光を集めることを覚えた。次に雨を集めることも覚えた。それから風に聴くことも学んだ。(中略) 雲が言った。——わたしはいつもきみの心を横切つてゆく。——うつくしさがすべてではなかった。むなしさを知り、いとおしむことを覚え、考いてゆくことを学んだ。老いるとは受け容れることである。あたたかなものはあたたかと言え。空は青いと言え。(『人はかつて樹だった』ID17224)

17年10月に読んだ本の感想

10.19 by 森林浴

「神様のファインダー——元米従軍カメラマンの遺産——」

写真 ジョー・オダネル 編著坂井貴美子 いのちのことば社刊 2017年9月 再版

この本は本年8月に初版が出版され、手元にあるこの本はその再版——つまり第2版と言う訳である。私はこの本を、カバーにもある「日本の少年が、首をがっくりと後ろに落とした赤ん坊を負った写真」を新聞で見て気になっていたので読んでみたのだが、読んでよかったと感じた。この本はもと米国従軍カメラマンだったジョー・オダネルが敗戦直後の日本で撮った写真を中心に、ジョーと結婚した坂井貴美子が纏め、主たる文章を書いたもので、夫婦合作と言って良い。写真は勿論広島・長崎の原爆被災地・被災者のものはあるが——一番凄いののは83頁「火傷を負った少年」だろう。原爆の放射能に焼き焦げた長崎の14歳の少年の背中。——、写真の数からいうとむしろ「焼け跡の隣人」のところに集約されている敗戦直後の日本人のいきいきとした生活記録の方が多。オダネルは戦後1948年に米国大統領付のカメラマンになって、トルーマン・アイゼンハワー・ケネディ、ジョンソン4代の大統領に仕えた。しかし彼は対日戦争中の凄惨な自分用の記録写真をもう見たくないとして40年以上自分のトラックに封印して、見ないようにしていたが、1989年にケンタッキー州のカトリック系の教会で遭遇した「炎に焼かれる等身大の男の像」——広島・長崎で被爆した男の像(カトリックのシスターが彫った彫刻。その彫刻には被爆者たちの写真が一面に貼られていた)——を見て大きな衝撃を受け、自分も自分の撮影した写真を使って、核戦争の恐ろしさを伝えていかなければならないと自覚した。彼自身が原爆の破裂した直後の被爆地に入った影響で、全身が放射能に蝕まれて体調が悪化していたのだが。

彼の企画した被爆の写真展は小規模ながら何回か日本とアメリカで実施された。そのプロセスで福島県会津の教会で活躍していた著者坂井貴美子がジョー・オダネルと出会うことになる。ジョー・オダネルはさらに写真集をアメリカで出版しようとしたが、30社以上の出版社に拒絶されたが、日本では小学館から出すことに成功し、また「学校図書」社が2002年に作った教科書に例の「焼き場に立つ少年」が掲載され注目を浴びた。1999年6月の朝日新聞にもこの写真についての記事が出た。2005年にはついにアメリカでの写真集も実現した。第4章には著者坂井貴美子とジョーとの38歳年齢差での結婚の経緯とその生活、第5章にはジョーの85歳での死去の経緯が書かれている。

読む楽しみを〜北の国から④ 亜子・記

『終わった人』(内館牧子著 講談社 2015)

——“お引き取りください”と言われたら——

本書は釧路新聞や岩手日報など八つの地方新聞に連載された新聞小説。定年退職後をどう生きるのかがテーマです。中年にはとても気になる定年退職後。

主人公の田代壮介は東大法学部卒、元大手銀行のエリート・サラリーマンでしたが、49歳でエリートコースからはずれて、小さな子会社に出向、転籍させられ、そこで定年を迎えます。63歳。まだまだやる気満々で、このまま終わりに終われない割り切れないモヤモヤした思いを抱えています。生々しい60代のおっさん。決して知的ではありません。俗物です。若く美しい女性を見ると恋がしたくなり、薄汚い駆け引きもします。カルチャー・センターに行ったり、スポーツ・クラブに行ったりしますが、そこは高齢者のたまり場。自分の居場所がどこにもなく、やはり仕事かしたいのです。

何とかもう一度第一線バリバリ活躍したい。そこで職場探しに必死になりますが、自分の能力を生かせるような仕事には巡り合いません。しかしひょんなことから、IT企業の若社長に懇願され信じられないような好待遇で顧問となります。ジェットコースターのように、運命はどんどん変化していき、どうなるのか興味津々で読み進めると、やはり最後はとんでもない結末に。世の中うまい話など決してないのです。

著者が書きたかったこと。それは“品格ある撤退”が定年退職した普通の人はふさわしい……ということのようです。もちろん生涯現役の人間も大勢います。「ヤツらはやっぱり天才なんだよ。あがいてしがみつくとレベルの才能じゃなくてさ、俳優でも作家でも映画監督でも芸術家でも何でも、世代交代と無縁でいられるヤツは天才よ。それと并列に並ぼうたって、努力でどうにかなるもんじゃない」。こんなセリフを登場人物の一人、55歳の枯れてきているイラストレーター青山敏彦に言わせています。もう一つは、異常なまでに健康に気を配り、アンチ・エイジングに夢中になる中高年に、自然に枯れていくソフトランディングする生き方もいいものですよ、とさりげなく促しているように思えます。

この小説は会話も面白い笑える部分も多く、ストーリーにぐんぐん引っ張られてあっという間に読み終わりますが主要な登場人物には誰一人として魅力的な深みのある人はいません(脇役にはボクシングのレフリーなど素敵な人物が登場しますが…)。男の虚栄心も女の打算も丸裸にされるので、読者はまるで自分の心の中を見透かされているように感じるかもしれません。男も女も、みな計算高くしたたかです。結婚は利害が一致するからするものと割り切っているし、サラリーマンは計算しながら会社を利用し定年まで我慢の連続でもしがみつ。著者はそんな欲得づくの現代人に日本人が持っていたはずの矜持と引き際の美学を語りたかったのではないのでしょうか。「散り際千金」が理想です。

17年10月に入った子どもの本

絵本

『金剛山のトラ—韓国の昔話』(ウォン・ジョンセン再話 福音館書店 2017) ID12560

よみもの

『メリーメリーのびっくりプレゼント』(ジョン・G・ロビンソン作絵 岩波書店 2017) ID12561

『君たちはどう生きるか』(吉野源三郎著 マガジンハウス 2017) ID12563

『漫画・君たちはどう生きるか』(吉野源三郎著 マガジンハウス 2017) ID12562

『街角には物語が……』(高樓方子著 偕成社 2017) ID12564

昔話

『山のグートブランド—アルプス地方のはなし(世界のメルヘン図書館4)』(小澤俊夫編訳 ぎょうせい) ID12566

詩

『いまほくに—谷川俊太郎詩集』(水内喜久雄選・著 理論社) ID12565

本のリスト

『十歳までに読んだ本』(西加奈子ほか著 ポプラ社 2017) ID12567

『クシュラの奇跡—140冊の絵本との日々』(ドロシー・ハトラ著 のら書店) ID12568

ノンフィクション

科学の好きな子、寄っといで

『親子で読もう宇宙の歴史』(池内了文 小野かおる絵 岩波書店) ID12571

『科学と科学者のはなし—寺田虎彦エッセイ集』(池内了編 岩波少年文庫) ID12569

『雪は天からの手紙—中谷宇吉郎エッセイ集』(池内了編 岩波少年文庫) ID12570

いただきました♡

『げんきなマドレーヌ』(ルドウィッヒ・ベームルマンス作・画 瀬田貞二訳 福音館書店) ID12546

『マドレーヌといぬ』(ルドウィッヒ・ベームルマンス作・画 瀬田貞二訳 福音館書店) ID12547

『マドレーヌといたずらっこ』(ルドウィッヒ・ベームルマンス作・画 瀬田貞二訳 福音館書店) ID12548

『マドレーヌとジブシー』(ルドウィッヒ・ベームルマンス作・画 瀬田貞二訳 福音館書店) ID12549

『かえってきたピップ』(マルセル・マルソー作 谷川俊太郎訳 富山房) ID12550

『木の精のふしぎなキス』(ストックトン作 平賀悦子訳 鈴木琢磨絵 文研出版) ID12551

『りんごがたべたいねずみくん』(なかえよしを作 上野紀子絵 ポプラ社) ID12552

『あかいくつ』(アンデルセンさく原作 かんざわ

としこぶん いわさきちひろえ 偕成社) ID12553

『天才えりちゃん金魚を食べた』(竹下龍之介作・絵 岩崎書店) ID12554※6歳の男の子が書いた童話

『お地蔵さまの本』(殿村進著・発行) ID12555※大人に読んでもらいたい

『多毛留』(米倉齊加年文・絵 偕成社) ID12556

『猫は生きている』(早乙女勝元作 田島征三絵 理論社) ID12557

『天の笛—宇野重吉の語りきかせ』(斎藤隆介作 滝平二郎画 風濤社) ID12558

『たけくらべ』(樋口一葉作 岩崎ちひろ画 童心社) ID12559

ハロウィーンの本

ハロウィーンのみみつ(金の星社) ID12250

おさるのジョージ ハロウィーン・パーティーにいく(岩波書店) ID11361

アンジェリーナのハロウィーン(講談社) ID11360

ハロウィーンがやってきた(晶文社) ID31、4097

ハロウィーンのみまじょテイラー(BL出版) ID3981

魔女たちのハロウィーン(佑学社) ID1811

おばけのジョージのハロウィーン(徳間書店) ID1326

ハロウィーンのおばけ屋敷(セーラー出版) ID361

ハロウィーンの魔法(偕成社) ID91

おおきなかぼちゃ(主婦の友社) ID10226

しゃっくりがいこつ(セーラー出版) ID2514

17年10月に入ったおとなの本

フィクション

『マスカレード・ナイト』(東野圭吾著 集英社 2017) ID17213

『盤上の向日葵』(柚月裕子著 中央公論新社 2017) ID17214

『ボクたちはみんな大人になれなかった』(燃え殻著 新潮社 2017) ID17215

『この世の春 上・下』(宮部みゆき著 新潮社 2017) ID17216,7

『その日の後刻に』(グレイス・ペイリー著 文藝春秋 2017) ID17218

『夫婦の中のよそもの』(エミール・クストリッツァ著 田中未来訳 集英社)

エッセイ ほか

『蔵書一代 なぜ蔵書は増え、そして散逸するのか』(紀田順一郎著 松籟社 2017) ID17220

『白髪のうた』(市原悦子著 春秋社 2017) ID17221※CD付きだが、事務所で預かります。聴きたい方は申し出て下さい。

『質素であることは、自由であること—世界でいちばん質素なムヒカ前大統領夫人が教えてくれたこと』(有川真由美著 幻冬舎 2017) ID17222

『湯殿山の哲学—修験と花と存在と』(山内史朗著 ぶねうま舎 2017) ID17223

『人はかつて樹だった』(長田弘著 みすず書房) ID17224

『だめだし日本語論』(橋本治著 太田出版 2017) ID17225

『翔ぶ夢、生きるカー俳優・石坂浩二自伝』(石坂浩二著 廣済堂出版 2017) ID17227

『みさくほの伝説と昔話』(二本松宏監修 三弥井書店 2017) ID17226

『ジョパンニの銀河 カムパネルラの地図』(椿淳一著 同時代社) ID17236※著者より寄贈

文庫

『安楽病棟』(帚木蓬生著 集英社文庫 2017) ID17229

『半身棺桶』(山田風太郎著 ちくま文庫 2017) ID17228

『浮世の画家』(カズオ・イシグロ著 ハヤカワ epi 文庫) ID17234※2017 ノーベル文学賞受賞

『北原白秋詩集』(北原白秋著 新潮文庫) ID17235

新書

『闘う文豪とナチス・ドイツイートーマス・マンの亡命日記』(池内紀著 中公新書 2017) ID17230

『戦争を読む70冊の小説案内』(中川成美著 岩波書店 2017) ID17231

『娘と話す地球環境問題ってなに?』(池内了著 現代企画室) ID17232

『娘と話す科学ってなに?』(池内了著 現代企画室) ID17233

寄贈

ありがとうございます。

『ゆるい生活』(群ようこ著 朝日新聞出版) ID17208

『戦国境界大名 16家—なぜ、あの家は近世大名として生き残れたのか』(榎本秋著 洋泉社) ID17207

『朱夏の女たち 上・下』(五木寛之著 文化出版局) ID17205、6

『クレオパトラ 上・下』(宮尾登美子著 朝日) ID17203,4

『笑う月』(安部公房著 新潮社) ID17210

『ひとがた流し』(北村薫著 朝日新聞社) D17212

『流れる星は生きている』(藤原てい著 中公文庫) ID17209

『ひたすら面白い小説が読みたくて』(児玉清著 中公文庫 2017)

『たけしの面白科学図鑑—へんな生き物がいっぱい』(ビートたけし著 新潮文庫) ID17237

『神様の裏の顔』(藤崎翔著 角川文庫) ID17238

『夢三夜—新酔いどれ小藤次8』(佐伯泰英著 文春文庫 2017) ID17239

『船参宮—新酔いどれ小藤次9』(佐伯泰英著 文春文庫 2017) ID17240

『サイン会はいかが?』『ようこそ授賞式の夕べに』(大崎梢著 創元推理文庫) ID9713、9714

※上の2冊は(成風堂書店事件メモシリーズ)